

2016年7月13日

第二回日・中・韓モータースポーツフェスティバル盛大に開催されました。

コリアインターナショナルサーキット

今年で2回目となる韓国S-FJレースは、7月9-10日天気に恵まれたヨンナムコリアインターナショナルサーキットで開催されました。

今年も昨年と同じように、日本から参加するドライバー・メカニックなどの関係者が、韓国インチョン空港に集合し、すべて団体行動をしながら約5時間のバス移動でサーキットに到着。

すべてを苦勞して企画して頂いているFJ協会の館会長に感謝したいと思います。年に一度の親睦会のようになっていますが、S-FJ関係者はこのレースによって親睦が図られています。

今年は日本選手が24名・韓国選手が4名の合計28名の参加となりました。

・スーパーFJレース No,1 (10LAPS) 7月9日 PM:3:10から

午前中の予選では、金曜日から調子のいい太田達也選手が、昨年予選ポールの吉田宣弘選手を押さえてポールポジションを獲得しました。



第一レース決勝では太田選手がスタートを決めて、吉田選手と山内飛雄選手、岡本大地選手、永井秀貴選手が続く。序盤でトップ3は後続車を引き離す。

太田選手と吉田選手のトップ争いは激しさを増し、太田選手は8周目にファステストラップを出して吉田選手との距離を引き離し、そのまま逃げ切りチェッカーを受けた。これで韓国戦は昨年に続き2勝目となった。

優勝	太田 達也	29'53.299 (10LAPS)
2位	吉田 宣弘	29'53.736
3位	山内 飛雄	30'02.768
4位	岡本 大地	30'25.912
5位	長谷川 綾哉	30'29.636
6位	草野 貴哉	30'31.714

・スーパーFJ レース No,2 (10LAPS)

7月10日 AM9:35 から



第二レースのグリッドは、第一レースのトップ8のリバースグリッドとなっており、秋山健也選手がポールポジションに着き、深村匠選手、草野貴哉選手、長谷川綾哉選手が続き、吉田宣弘選手は7番手、太田達也選手は8番手からのスタートとなった。

レッドシグナル消灯で全車スタート。1周目を終え戻ってきたのは吉田選手がトップ、2番手には山内飛雄選手が、そして太田選手が3番手。2周目以後、4番手以下を少しはなし、2レースともに同じ顔ぶれのトップ争いとなった。そして、太田選手が山内選手を抜いて2番手に浮上。

そして4周目には太田選手が吉田選手を抜きトップに浮上して、8周目には記録タイムも叩き出し、吉田選手を引き離す。その直後の3コーナーでストップした車両があり、赤旗でレースは終了し太田選手は見事今回のレースを連勝した。

優勝	太田 達也	2 2	' 3 9 .	4 0 4	(8LAPS)
2 位	吉田 宣弘	2 2	' 4 1 .	4 5 2	
3 位	山内 飛雄	2 2	' 4 8 .	8 7 7	
4 位	長谷川 綾哉	2 2	' 5 9 .	1 4 9	
5 位	深村 匠	2 3	' 0 2 .	7 8 3	
6 位	岡本 大地	3 0	' 3 1 .	7 1 4	



大きな事故もなく、関係者すべてが有意義な時間を持つことができ、S-FJ 振興にもおおきく寄与していると感じられる日・中・韓モータースポーツフェスティバルであった。

今回も東西の S-FJ 関係者がこのレースに参加して親睦が図られていることは非常にうれしい限りです。来年もこのレースの開催を期待したいと思います。

ジャパンスカラシップシステム

報告：神谷